

会議等名	平成 31 年度 第 1 回 海老名市総合計画審議会
日 時	平成 31 年 4 月 18 日(木) 14 : 30~16 : 00
場 所	海老名市役所 6 階 全員協議会室
出席者	<p>委員：加藤委員、鴨志田委員、桐生委員、小林委員、佐藤委員、曾根委員、深須委員、藤田委員、内山委員、勝田委員、杉山委員、館委員)</p> <p>事務局：財務部長 柳田理恵 財務部次長 告原幸治 財務部参事兼企画財政課長 清田 聡 企画財政課主幹兼政策経営係長 川崎 宗一 企画財政課政策経営係副主幹 志村 政憲 企画財政課政策経営係主任主事 関野 大輔</p>
1 委 嘱	市長挨拶
2 開 会	
3 会長及び会長職務代理者の選出について	<p>会長 : 小林 隆 委員</p> <p>会長職務代理者: 藤田 才 委員</p>
4 議 題	<p>(1) 海老名市次期総合計画骨子案の内容審議について</p> <p>海老名市次期総合計画の骨子案について、事務局から説明。</p> <p><質疑・意見等></p> <p>委員：今後の方針のなかに「HUGHUG ゾーン」とあるが、どういう意味か。</p> <p>事務局：HUG は英語で抱擁を意味する。海老名市では、子育てに関して「HUGHUG 構想」、「HUGHUG えびな宣言」というものを打ち出しており、そこから取り入れている。分かりにくい用語に関して、注釈を設けるようにする。</p> <p>委員：はぐはぐ広場が南部、北部、西部などにできた。育児中の母親同士がつながるきっかけとなる大変有効な制度だと思っている。これから 10 年先はどうなるか分からないが、当面このような場は必要だと思う。</p> <p>会長：前回の審議会で SDGs の各項目に、きちんとその対応管理を位置付けるべきだという意見があったが、何か追加や内容についての意見があれば頂戴したい。</p>

委員：特段ない。海老名市青年会議所としては、海老名市でSDGsを一番推進する団体を目指していく。SDGsや災害協定などにおいて、海老名市や社会福祉協議会の三者で防災協定を結ぶなど、ノウハウもある。

委員：海老名市が住みやすいのは、緑の環境があるからだと言ってきたが、その緑の環境を維持しているのは一体誰なのかということが読み取れない。実際に緑の環境を維持しているのは誰なのかという問題や、市街化調整区域の耕作放棄地において耕作したい人と耕作してほしい人とのマッチングがうまくいっていない問題について、解決策や道付けが見えていないのが気になった。

会長：この後、立地適正化計画の内容について担当課から説明があるとのこと、その中で少し説明があると思う。調整区域と市街化区域の問題は重要で、特に耕作放棄地はどこの自治体もかなり深刻になっている。緑や調整区域の問題も、後半の議論の中に組み込んでいきたい。

会長：前回ご意見を頂いた消防団員確保に対する意見は、事務局が所管課へ報告されたとのことだが、そのような形でよいか。

委員：ありがたいと考えている。特段問題ない。話は変わるが、まちづくり、総合計画というのは、いかに市民が住みやすく、楽しく、ずっとここに行きたいなと思える海老名市をつくるにはどうすればよいのかということだと思ふ。

会長：不妊治療の件について、事務局の対応はどうか。

委員：本当に前向きに捉えていただいて、感謝をしている。先ほどもお話があったように、結婚後の出産というかたちで海老名の人口を考えていかななくてはいけない段階である。結婚をしたくてもできない人や、子どもを産みたくても産めない人に向けて、総合計画のなかでも見据えてやっていかなくてはならない。

会長：婦人科医が不足している。海老名市も、今は若い世代がたくさん入ってきて婦人科医もいると思うが、この周辺でもかなり深刻な問題になってくると思うので、ぜひ検討を進めていければと思う。

委員：住みやすいまちというのは、やはり活発な経済というのも不可欠であろう。今後もそのような観点から少し意見をお出しできればと思う。

会長：海老名は交通の結節点となり経済が活性化しつつあるので、このチャンスをぜひ生かしたい。海老名市の最後のチャンスではないかと思う。このような好機はめったにない、本当に恵まれた自治体だと思うので、委員の協力を得ながら、経済政策をしっかりと進めていきたい。

委員：今回はこの骨子案が、以前の内容からすると非常に分かりやすく、10年後を目指すなか、それに対する個々の内容を頂いているので、細かい意見が出せるのではないかと思っている。

会長：私は神奈川県総合計画審議会の委員も務めているのだが、知事が次期の計画にはぜひとも笑顔という方針、構成を入れていきたいとおっしゃっている。今まで「未病」という言葉を掲げていたが、さらに幸せを純粋に実感できる環境をつくっていきたいということでご意見を申し上げて、このようなかたちで踏み込んでいただいた。地方の自治体もよく行くが、海老名市のように、経済のバランスも取れていて、住宅環境の開発余地もまだ残っている自治体はないと思う。全国の模範になるようなかたちで、新しいメンバーでの総合計画の策定をぜひ進めていきたいと考えている。

(2) 海老名市立地適正化計画について

次期総合計画との関連性の高い立地適正化計画について、都市計画課職員から説明。

<質疑・意見等>

委員：戸建て住居についても緑化率を規定することはできないのか。

職員：「海老名市住みよいまちづくり条例」で緑化についても規定しているが、個々の戸建て住宅について緑化率を規定するのは難しい。集合住宅や市街化住宅、特に市調整区域などは緑化率を上げて緑化を進めている。

委員：居住誘導区域の設定について、工業専用地域や工業地域については別に計画があるのか。

職員：それらの地域については、都市マスタープランに計画されている。

委員：「備える10年、保つ10年」について、この備える、保つが10年ずつというところの根拠はどこにあるのか。

職員：まず10年後、13万4,000人という、現状よりも多少増えているところで、今後も海老名駅の駅を中心に発展していくと考えている。都市計画事業は10年ぐらいのスパンで考える必要があるので、まず10年ということを目標に進めていく方針だ。

委員：市街地移住の項に自転車等でのアクセス圏として設定されている地域だが、坂が多く、実際には高齢者などはアクセスできないのではないかという懸念がある。

職員：確かに上り下りのあるなかで、距離のイメージで設定してしまっており、実際にはコミュニティバスや福祉サービスで対応する必要はある。

委員：交通に関して、バスを増やすということだが、路線バスの赤字経営、運転手の労働条件が悪いなどといった問題もあるが、どのように進めていくのか。

職員：路線バスについて、できるだけ現状維持をしていきたい。そのためにはバス会社の関係だけでなく、路線バス沿線の人口が増えることも重要だ。郊外に居住する人へのケアも行っていきたい。

委員：高齢者が困っていることとして、病院に通う手段がないということがある。
コミュニティバスや福祉バスではカバーしきれない。

職員：コミュニティバスの運行に加え、今年度、交通弱者のための巡回バスを実証運行する予定だ。コミュニティバスやぬくもり号、巡回バスの使い方については今後も検討していく。

委員：総合計画では、2029年に14万人を目指すとしている。こちらの立地適正化計画では、減少するようなかたちになっている。整合性は取れているのか。

職員：政策的な目標と推計の2つがある。立地適正化計画については、市街地をコンパクトにしていくという現実的な計画であるので、こちらについては実際の推計を参考にしている。総合計画については、政策的な14万人という人口を使いながら、将来のビジョンを描いていきたいと考えている。

職員：補足すると、立地適正化計画については、社会人口問題研究所の推計を使うように指定されているが、その数値がだいぶ低く推計されているため、人口ビジョンの推計を使用した。

(3) その他

第1回パブリックコメントの結果について、事務局より説明。

<質疑・意見等>

特になし

5 閉会

以 上